

能登みらい創造ネットワークが手掛ける事業イメージと目的

課題

高齢化・狭小な耕地・地震の三重苦⇔形成された産地
・事業者単独での限界→共通のビジョンに沿った協力

共通ビジョンの条件

- ・先端技術の活用
- ・産業複合化による誘客



内発性・チャレンジ性・モデル性

ブルーベリー、りんご、柿、イチヨウ、ブドウ、山菜それぞれの加工品を地域ブランドとして総合化する。

展開例：ローカルガストロノミー、自然体験、ペットツーリズム、ガーデンツーリズム

独自性・革新性

- ・オフグリッド（水の循環・発電（チップボイラー））
- ・AQバイオステーション（無肥料・無農薬）
- ・生産の省力化とサービスへの人的資源投入
- ・外部人材の受け入れ（地域と事業の魅力化）



地域への定着・社会性

地域おこし協力隊を継続採用し、それぞれ3年後から社員化を図り、新規事業の中核として活動できる。

モデル化により視察者を含め関係人口の増加が見込める
観光の流れに変化=奥能登の中間（周遊でない滞在型）

「食」のみならず「暮らし体験」提供の基盤がある



事業性・継続性

各農家の販売ネットワークの維持と持続的誘客

- ・希少性のPR / デトックスと体の健康 / ペットの健康
- ・共同店舗と宿泊施設の整備
- ・宿泊研修施設との併用



テーマ

災害に揺るがない町（地産地防）

安全・安心な食の町

里山・里海の伝統を受け継ぐ町

新しい「農」の一つを实践する町

